

愛知学院大学薬学会誌

Volume 9

December 2016

THE AICHI-GAKUIN JOURNAL OF PHARMACEUTICAL SCIENCES

愛知学院大学薬学会

THE AICHI-GAKUIN SOCIETY OF
PHARMACEUTICAL SCIENCES
NAGOYA JAPAN

ISSN 1882-9511

愛知学院大学薬学会誌

第9巻 2016年12月

THE AICHI-GAKUIN JOURNAL OF PHARMACEUTICAL SCIENCES

Volume 9 December 2016

愛知学院大学薬学会

THE AICHI-GAKUIN SOCIETY OF
PHARMACEUTICAL SCIENCES

NAGOYA JAPAN

巻 頭 言

暇な時に考えること

薬学研究科長 櫛 彰

先回、薬学部長として薬学会誌第4巻の巻頭言の執筆を依頼された平成23年には、東日本大震災が発生し東北地方が甚大な被害を受けた。折しも、研究科長として薬学会誌第9巻の巻頭言の依頼を受けた今年（平成28年）は、九州熊本地方を震源とする大規模地震が発生した。偶然とはいえ、不吉である。

さて、最近暇つぶしに読んだ本のなかで気に入ったものが数冊あったので、そのうちの1冊を紹介したい。タイトルは、「喜嶋先生の静かな世界」（森博嗣，講談社文庫）である。大学での研究生活について書かれているが、堅苦しいものではない。大学の工学部に入学した主人公が卒業研究のために講座配属され、大学院に進み、その後大学の准教授になるまでの間、指導教員である喜嶋先生から研究に対する姿勢や態度について影響を受けながら、「研究の純粋さ」を考えるストーリーである。喜嶋先生の研究に対する考え方のいくつかを挙げてみる。1つめは、「学問には王道しかない」である。これは、正攻法でしか学問の深遠さは追究できないし、真の研究成果は得られないということである。2つめは、「論文を発表することは研究ではない」である。論文を書く（文章化する）ことで研究内容が整理される利点はあるが、大部分がレトロスペクティブであり、今の研究が止まっていることに等しいらしい。研究は、調査に基づく目的と手段の決定、実験の遂行、満足出来る成果の取得までと考えている。それを論文として発表する（他者から評価を受ける）ことは必要ではあるが、これ自体は研究活動ではなく、内容を他の研究者にちょっとサービスする（研究者の良識）くらいのものであるらしい。さらに、「論文には世界初の知見が記されていなければならない」としている。ノイエスが無ければ、それは論文とは呼べず、研究は失敗したこととなる。最後に、研究室が腐る（研究室の体を為していない）のは、やってもやらなくてもいい研究しか行っておらず、本人もそれを内心ではわかっている場合、あるいはそれ以下の場合としている。他にも多くの喜嶋語録が登場する。すべてについて賛同できるわけではないが、一理ある。暇な時に、御一読いただきたい。

昨今、大学の使命（役割）が大きく3つに分別され、それぞれの特徴を出した教育が求められている。当然、その上に位置する大学院においても、大学の理念に基づき、本分を弁えた教育研究が行われなければならない。ともあれ、現在の本薬学研究科の使命は、高度な教育と先端の研究活動を行い、その成果を発信するとともに、博士力を身につけた人材を世の中に送り出すことである。多くの大学院生の入学を望むと同時に、愛知学院大学大学院薬学研究科の更なる飛躍を願う。

目 次

巻頭言

- 暇な時に考えること
薬学研究科長 樋 彰

総 説

- 国内における危険ドラッグの実態と対策 1
國正 淳一、堺 陽子、浦野 公彦

学会報告

- 薬剤師におけるインスリンペン型注入器用すべり止め補助具に対する
認知度及び使用状況に関する調査と検討 11
木村 直幸、巽 康彰、加藤 文子、加藤 宏一
糖尿病患者におけるインスリン注入器の注射手技の実態に関する調査 13
岩田 実紗、加藤 文子、巽 康彰、武藤 達也、加藤 宏一

医療生命薬学研究所

- 平成28年度 医療生命薬学研究所組織 15
平成28年度 医療生命薬学助成（プロジェクト提案型研究） 16

平成27年度 医療生命薬学助成研究概要

- 細菌二次代謝産物と炎症性疾患の関係性を探る萌芽的研究 21
中島 健一、富田 純子、鈴木 裕可
多剤耐性緑膿菌の抗菌薬耐性を阻害するリード化合物の作用機序と
最適化を指向した構造・機能相関に関する研究 23
森田 雄二、安池 修之、松村 実生、川崎 達也
炎症性骨破壊疾患の新規治療法の構築に関する基礎的研究 25
森田 あや美
延髄・孤束核におけるL-DOPA受容体（OA1）を介したシナプス伝達調節機構の解明 27
大井 義明
各種水銀化合物の複合曝露による中枢神経障害発症におけるメタロチオネイン-IIIの関与 29
李 辰竜
成績データ解析結果を基盤とする新規教育体制案の作成 31
波多野紀行、武田 良文、古野 忠秀、山本 浩充、安池 修之

学会等開催助成報告

- 第43回日本毒性学会学術年会 35
佐藤 雅彦
第28回微生物シンポジウム 38
河村 好章

国際交流委員会活動報告

韓国薬学研修引率報告	安池 修之	43
	國正 淳一	47
韓国薬学研修報告		50
	加藤 優希	51
	神谷 侑未	53
	原川 奈美	55
	村上 茉奈美	57
	竹澤 秋穂	60
	三宅 智美	62
	梅谷 明佳里	64
	高田 ゆうき	66
	林 あゆみ	68
	宮本 花純	70
	平野 友香	73

F D委員会活動報告

平成27年度 薬学部F D研究会報告	75
古野 忠秀 (文責)、脇屋 義文、櫛 彰、山村 恵子、河村 好章、安池 修之、 森田 雄二、浦野 公彦、小川 法子、井上 誠 (委員長)	
卒業研究論文会優秀発表賞報告	85
講座紹介・業績リスト	87
大学院薬学研究科 一期生 博士論文	135
薬学部医療薬学専攻 七期生 卒業論文課題一覧	141
評議員会便り	147
投稿規定	159
薬学会会則	161
名誉会員リスト	164
協 賛	
編集後記	